

事務事業評価(平成23年度試行版)結果について

1. 事務事業評価について

高齢化や少子化及び市民ニーズの多様化などに伴い、行政には新たな施策の推進が求められております。

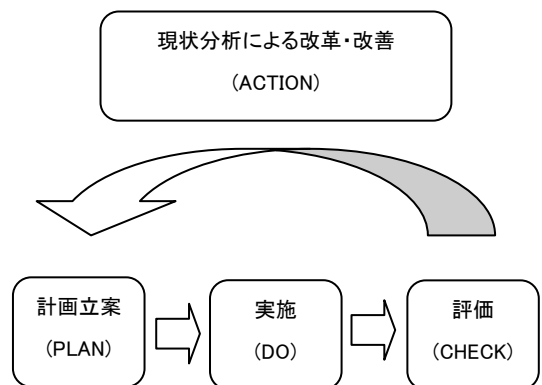
一方、人口が減少する時代が到来しており、従来からの政策については、これまでどおりの利用者や対象者が見込まれる状況ではなくっており、見直しが必要となっています。

また、合併による特例期間の終期が近づく中、長引く景気の低迷による税収の落ち込みが見込まれるのに対し、震災の復旧・復興に向けた取り組みが求められており、今後、本市における財政状況は、これまで以上に厳しくなることが予想されます。

このような中、旭市総合計画に掲げた施策の着実な達成を図るためには、「限られた財源や人員の効果的、効率的な活用」と、「市民が真に求めるサービスの効果的な提供」が、より一層、求められることから、限りある行政資源（人・物・財源）を市民のニーズに合わせ、最適に配分していく必要があります。

このため、貴重な行政資源としての、職員・組織全体の意識改革や資質向上による職務遂行能力を高めるとともに、効率的・効果的な行政マネジメント（経営）、説明責任の向上・徹底を図り、もって、「コスト意識や経営感覚を取り入れた行政運営の確立」を早期に実現する必要があり、その有効な手法の一つとして、「事務事業を評価する仕組みづくり」に取り組むものです。

◇行政マネジメントサイクルイメージ図



2. 事務事業の分類・評価項目及び評価対象事業

平成22年度に実施した全463予算事業から、ソフト事業を中心に、幅広い分野から抽出した128事務事業（114予算事業）を対象に実施しました。

個々の事務事業については、予算事業単位^{※1}を基本に、事務事業評価シートを用いて、投入した資源（予算や職員数など）や活動の実績（サービスの提供量）、活動の成果（目的に対する成果）を点検するとともに、「必要性」や「有効性」、「達成度」、「効率性」の4つの視点から検証した結果をもとに、事業の方向性としての「総合評価」を行いました。

なお、事務事業はその内容に応じて以下のとおり4類型に分類するとともに、類型ごとに評価項目を設定しました。

※1 ひとつの予算事業の中に、対象や目的、手段等が異なる複数の事業が含まれている場合は、必要に応じて事業を分割し評価を行いました。

類 型	内 容	必要性	有効性	達成度	効率性	総合	対象事業数	構成比(%)
(1) ソフト事業	・市民等へのサービス提供を行う事務事業で、(2)～(4)に分類されないもの	○	○	○	○	○	91	71.1
(2) 施設の建設・整備事業	・施設等の建設又は改築 ・道路や公園等の整備事業(施設整備等に係る補助金、負担金を含む)	○	—	○	—	○	9	7.0
(3) 施設の管理・運営事業	・施設の管理、運営 ・施設、公園などの維持補修事業	—	—	○ 利用度	○	○	19	14.9
(4) 内部事務	庶務・経理など直接的な市民サービスの提供を伴わない事務	○	—	—	○	○	9	7.0
計							128	

【各評価項目の内容】

評価項目	内 容
必要性	公的関与の必要性、事業の妥当性
有効性	施策が目指している状態に対する事業の有効性
達成度 (利用度) ^{※2}	成果及び事業の実績の目標に達する達成状況 (施設の必要性等を判断する利用者数)
効率性	実施主体、経済性・手法の妥当性

※2 「施設の管理・運営事業」の場合、達成度ではなく利用度で評価

【総合評価】

評価区分	評価結果に基づく改善等の内容 ^{※3}
A	計画どおりに事業を進めることが適当
B	事業の進め方の改善の検討
C	事業規模・内容または実施主体の見直しの検討
D	事業の抜本的見直し、休・廃止の検討

※3 記載の内容はソフト事業のケース（4つの類型により内容は異なります。）

3. 行政内部評価結果

所管課長を評価責任者として1次評価を実施しました。

また、1次評価及び所管課とのヒアリングの内容を踏まえ、秘書広報課、行政改革推進課、総務課、企画政策課、財政課、教育委員会庶務課の6課長を評価者とした2次評価を実施しました。

総合 評価	評価結果に基づく改善等の内容	1次		2次	
		事業数	構成比 (%)	事業数	構成比 (%)
(1) ソフト事業					
A	計画どおりに事業を進めることが適当	13	14.3	10	11.0
B	事業の進め方の改善の検討	71	78.0	68	74.7
C	事業規模・内容または実施主体の見直しの検討	4	4.4	11	12.1
D	事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	3	3.3	2	2.2
小計		91	100.0	91	100.0
(2) 施設の建設・整備事業					
A	計画どおりに事業が進んだ(進んでいる)	6	66.7	6	66.7
B	概ね計画どおりに事業が進んだ(進んでいる)	3	33.3	3	33.3
C	ある程度計画どおりに事業が進んだ(進んでいる)				
D	計画どおりに事業が進まなかった(進んでいない)				
小計		9	100.0	9	100.0
(3) 施設の管理・運営事業					
A	現状どおり管理・運営を進めることが適当	7	36.9	5	26.3
B	運営改善の検討	8	42.1	10	52.7
C	施設のあり方を見直しの検討	2	10.5	2	10.5
D	統廃合、民営化の検討	2	10.5	2	10.5
小計		19	100.0	19	100.0
(4) 内部事務					
A	改善の余地がほとんどなく、現状どおり実施することが適当	3	33.3	3	33.3
B	事業の進め方の改善の検討	5	55.6	5	55.6
C	事業の実施方法・内容等、大幅な改善の検討	1	11.1	1	11.1
D	事業の抜本的見直し、廃止の検討				
小計		9	100.0	9	100.0
合計 (※記載の内容はソフト事業のケース)					
A	計画どおりに事業を進めることが適当	29	22.6	24	18.8
B	事業の進め方の改善の検討	87	68.0	86	67.2
C	事業規模・内容または実施主体の見直しの検討	7	5.5	14	10.9
D	事業の抜本的見直し、休・廃止の検討	5	3.9	4	3.1
合計		128	100.0	128	100.0

4. 外部評価結果

ソフト事業を中心に各分類から抽出した7事業について、行政改革推進委員を評価者とした外部評価を実施しました。

事務事業名	分類	区分	総合	指摘事項
人事管理事務費	内部	2次	C	・民間の状況を調査すること ・公費で支出する記念品は廃止すべき
永年勤続者表彰式の評価		外部	D	
市営住宅改修事業	建設整備	2次	A	・運営面での改善が必要（経済的弱者に該当しない場合には、退去していただく努力が必要）
下永井団地改修工事		外部		
健康優良家庭表彰事業	ソフト	2次	D	・予算の組み方を検討すべき（過大な予算は組まない）
		外部		
福祉タクシー利用助成事業	ソフト	2次	B	・達成度および効率性の評価はもう少し低い評価でもよいのではないか。
		外部		
出産祝金等支給事業	ソフト	2次	A	特になし
		外部		
社会教育活動費	ソフト	2次	C	・目的や対象者をしぼるべき ・実施の可否について検討すべき
青少年海外視察研修委託料		外部		
大原幽学記念館管理費	管理運営	2次	A	・運営面での改善が必要（PR方法やイベントの企画など、多くの人に見ていただく工夫が必要）
		外部		

※事務事業名が2段書きの事業については、予算事業を分割して評価を実施したもの。